

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400035		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホームなずな		
所在地	長崎県雲仙市千々石町庚1297-1		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営が医療法人に為、日中併設の施設に看護師が常駐し夜間は菜の花クリニックに24時間常駐している為、医療面での緊急は素早く対応できる。又、医師が毎日往診に来られる。併設にデイサービスのがあるので利用者はのびのびと生活できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雲仙小浜の橋湾にほど近く、閑静な場所に位置する当該事業所は、医療法人を母体を持つことから医療と介護の両面で入居者の生活を支えるよう努められ、毎日を安全にゆっくりと過ごせるよう支援されている。その方を中心に介助の方法やペースを合わせ、職員同士が話し合いの機会を多く持ちながら入居者や家族が安心して生活ができるよう努められている。日課の中で入居者が共用空間で過ごす時間も長く、職員や入居者同士が話しやすい雰囲気を作り、お互いを認め合いながら過ごす様子が確認できた。入居者同士が関わりを持つことができ、入居者や家族に安心感を与えるよう努められている。毎日の往診やその方に応じた介護によって、自由で家庭に近い環境で生活できているが、疾患に応じて医療的な管理を必要とする入居者も多く、重度化に伴い多様な専門性を持って関わる困難さも窺える。目の前の課題に真摯に向き合い、改善に向け取り組む職員の姿に、今後ますます期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念があり職員皆で実践できる様、取り組んでいる。	立ち上げ当時より掲げられた理念は、常にフロアに掲示し、人格を尊重しながら安全な暮らしの実現に向け取り組まれている。朝礼や職員会議で体調面や事故防止に向け注意喚起し、入居者の暮らしが安全に、怪我なく過ごせるよう職員全体で努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など参加できていないが施設の行事などで慰問などお願いし孤立しないよう心掛けている。	ホーム周囲に民家が少なく、積極的な近隣との交流も難しい悩みもあるが、併設の通所施設への慰問を通して地域との交流を図り、職員が地域の清掃や行事に足を運ぶことで地域と接点を持つよう努められている。道向かいの飲食店とは一時避難場所への理解や運営推進会議への参加等、協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては行っていないが家族に向けて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換を行う事で、より良いサービスが提供できる。	会議は定期的開催され、その時期に応じた議題やホームの状況を伝え有益な会議になるよう努められている。管理者は参加者に意見を求め、出された意見については前向きに検討し運営に繋げている。議事録については玄関に設置し、入居者や家族が自由に閲覧できる準備があり、会議の透明性が図られている。	会議開催にあたって参加者の選任や会議進行に悩みもあるが、家族や関係者等に向けて会議内容の周知を図り、日程調整や会議進行における事前準備等、参加者が語りやすい環境作り等、参加者から意見を得やすい働きかけ方の工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の福祉事務所など日頃から関わっており運営推進会議にも参加していただくことで情報交換をしている。	経済的や心身の悩みで生活に支障が出た際には、入居者や家族の事情を把握し、行政や福祉事務所等関係機関と連携を図りながら、入居者が安心して暮らしが保てるよう努められている。日頃から法人内系列施設とも交流を図り、対応方法等の情報交換をしながら、よりよい暮らしの実現に向け取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解し夜間以外施錠は行わない。緊急など行わないといけない時は、家族に説明し同意を得ている。	心身の状態が重度で、転倒や怪我の不安が強い入居者も多く、身体を保護する観点からベルトやベッド柵の使用がある。職員は身体拘束への認識を持ち、使用方法や対策を検討し入居者が怪我なく安全な暮らしができるよう努められている。使用については入居者の状況をみながら職員間で話し合いを重ね、家族と話し合いや同意を得たうえで実施するようにしている。	医療の必要性や行動障害等で介護量も多いが、道具の工夫や生活環境の整備、また見守り体制の見直し等、職員間で話しあうことで、拘束をしないケアの実現に向け更なる努力が必要と思われる。拘束の必要性について定期的な評価や対策、家族の意向を記録に残し、今後改善に向けた対応に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在取り組んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し理解・納得していただけるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けていない。職員が家族から苦情などを受けた時は、全員に内容を報告し解決できる様話し合いを行っている。	面会時ごとに入居者の状況を家族に伝え、家族の考え方やホームの方針等意思疎通を図りながら、安心した生活の実現に向け努められている。職員と家族が身近な存在となるよう普段からよく話し、体調不良や状態変化が生じたときには家族に早めに声かけすることで戸惑いや不安を取り除くよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案なども聞きその都度管理者が会議などで報告し運営に活かしている。	管理者が直接現場に入り、入居者や職員と一緒に過ごすことで内情を把握し、業務や対人関係等不安や戸惑いに迅速に解決できるよう努められている。新人育成については中堅職員と同行で業務につき、介護技術や入居者との向き合い方等お互いに学びの機会を設け、職員育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の努力など把握し報告している。又、職員に向上心を持って働けるよう一人一人に仕事を与えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず積極的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入会している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族から不安や要望を聞き安心して生活できる様取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度相談を受け必要ならば話し合いの場を設けるなどし、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を把握しその人に合った支援を行っている。状態によっては併設のデイサービスの利用も進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気・環境作り努めている。職員が利用者と一緒に作業を行い力を発揮できる様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際、状態など報告している。場合によって電話など定期的に掛け報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仏様やお墓詣りなど家族に協力していただけるよう努めている。	重度の入居者が多く、身体的な理由から外出ができない状況にもあるが、家族と話し合いを持ちながら遠方からの家族帰省時には外出・外泊の仕度を整え、入居者の思いやそれぞれの背景を考慮しながら、寂しさに寄り添う支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人一人の性格など把握し孤立しないよう情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在取り組めていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で把握し全員で検討している。	入居者の「～したい」との思いを実現したいの思いから、職員は入居者の仕草や言葉を大事に考えており、筆談やスキンシップ等のコミュニケーションを通してその方が大事にしている思いや考えを汲み取り思いの実現に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人・家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報を会議などの場で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が生活していく上で、課題など情報交換を行い介護計画を作成してはいる。	本人や家族の思い、また介護者の視点で話し合いながら介護計画を立案し、入居者が安心し、心身ともに現状維持した生活ができるよう取り組まれている。サービス内容については毎月評価し、状況に応じて追加や変更をしながらその方の現状に応じた計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記載はしていないが職員同士で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出など要望があれば送迎など行っている。必要に応じてサービスの多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在取り組めていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為、入所時に説明し主治医の変更をお願いしている。眼科や皮膚科などはかかりつけを受診していただいている。	母体が医療機関であることから、家族同意のもと、入居と同時に主治医を変更し、母体と連携を図りながら体調変化に迅速に対応できるよう努められている。毎朝バイタルや夜勤帯の特記等を主治医に伝え、毎日主治医の往診を受けながら医療との連携を図り、専門性を持って日々関わっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており週1回訪問していただいている。その際、職員が状況など報告し必要に応じて処置や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報共有を行い家族に報告している。又、退院時は支援についても医療機関から指導をうけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連絡を常に行い状態を把握し家族に報告している。	現在、在宅酸素や留置カテーテル等医療的な管理の必要性が多い入居者も多く、主治医や看護師より処置の方法等指示を受けながら、医療と介護の両面で在宅に近い生活ができるよう取り組まれている。家族と主治医の話し合いによって体調悪化の際は母体への入院での対応も多いが、主治医を交えて本人や家族の意向を確認し、今後も対応していく意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の協力はお願いしているが、訓練は行っていない。	定期的な避難訓練を実施し、動作や手順の確認をしながら職員個々が迅速に行動できるよう取り組まれている。今年度は自然災害に意識を持ち、ホーム上流のダム決壊についてハザードマップや消防署へ対応方法の確認を行った。今後も火災に限らず、防災に意識を持ち、管理者は地域住民への協力もお願いしながら入居者の安全を図っていきたくと考えている。	今回、水害について意識を持ち地域性や対応方法等検討する機会を持った。現在防災計画が未策定の状態にあり、管理者は今後情報収集し取り組む意向にある。備蓄品の充実や安否確認、有事の際の伝達手段等、職員で話し合い、手順を確認しながら、より実効性の高いマニュアルの策定に繋がることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などを通して虐待や拘束の無いよう職員一人一人が心掛けている。	入浴や排泄介助の際には必ずドアを閉め、周囲の視線や羞恥心に配慮した対応に努められている。目上の方である意識を持ち、意思疎通が困難な入居者も、仕草や表情で心情を見極め、その方に応じた言葉かけや接し方で関わり、その人らしさを失わない対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる様、思いを尊重し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が利用者と一緒に衣類など選び本人の希望に沿ってみだしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力の合わせ食事の準備など行ってもらっている。	入居者の食事形態に合わせ、とろみや刻み加減、柔らかさ等調理担当が毎日確認し、その方に応じた調理が施されている。入居者自身が自分で食材を口に運び、食事摂取できるよう食器を選定している。本人のペースをみながら皿の置き換えや声かけがなされ、時間をかけゆっくり食事介助されている様子が確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関などに相談し調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し必要に応じて職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ウロシートを作成し時間を見ながら排尿を促している。	身体機能の低下で自分で体を支えることが困難な入居者も多いが、定期的な排泄の声かけをしながら排泄の自立に努められている。重度の入居者へは安全性を考慮しながら2名体勢で介助を行っている。入居者ができる事に手を出さず、日常生活動作ができるだけ継続できるように声かけや介助に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化に良いものの提供や腹部マッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望タイミングに合わせて入浴していただいている。	入居者に応じた入浴方法で支援され、皮膚の状態や打撲痕等身体の状態把握に注意を払い、主治医と相談しながら、皮膚の状態改善に取り組まれている。毎日入浴できる環境を整え、時間やタイミングも入居者と相談しながらゆっくり入浴できるように努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のない程度に必要なに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の薬情報を作成し服薬時は職員が介助、又は、手渡しで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて出来る範囲で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	高齢化に伴い感染症など考慮し、お花見などでの外出以外はあまり外出の機会は少ない。	医療的な管理の必要性が高い入居者も多く、感染症対策で外出も消極的になっている現状があるが、天候や時期をみながら外出にでかけたい意向にある。直近では地元の神社へ初詣に出かけ、懐かしい風景を楽しまれた。今後も本人の希望に添いながら取り組んでいく意向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意を得て事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話など出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の関係性を把握し配置している。食事など季節の物を積極的に取り入れ季節感を持って生活できるよう取り組んでいる。	今年度は入居者の重度化に伴い、車椅子操作が自由に行えるよう家具の間隔を広くとり、入居者ができるだけ介助を受けず、自分で移動がしやすいよう環境を整えた。季節感を失わない飾り付けを施し、その方の身体状況に応じた席の準備や家具の配置で、それぞれが居心地良い場所となるよう努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意志に沿ってその時々で支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。	各居室毎に全て異なる壁紙を使用し、部屋全体が自宅に近い温かみを感じさせている。自宅での日課に近い生活が入居後も継続できるよう、使い慣れた家具や家電製品の持ち込みがあり、入居者がそれぞれが思いおもいに居室で寛げる空間づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置など利用者に合わせ変更した方が良いものは変更するなどしている。		